

平成28年度（第60回）
岩手県教育研究発表会発表資料

いきる・かかわる・そなえる分科会

「いわての復興教育スクール」の取り組み
～本校における「いきる」「かかわる」「そなえる」の教育活動～

平成29年2月10日
岩手県教育委員会
岩手県立釜石祥雲支援学校
佐藤 崇

1 地域や学校の状況

現在、小学部17名、中学部15名、しゃくなげ分教室9名、高等部14名、計55名の児童生徒が在籍している。

被災した釜石市内に学校はあるが、本校舎、高等部校舎（釜石高校）ともに被災を免れた。しかし未だ仮設住宅で暮らす児童生徒や職員もおり、さらに本校舎、高等部校舎ともに地域には仮設住宅もある。これまで「花のプランター」や「うちわ」を作成し、日頃の支援へのお礼として近隣の仮設住宅や学校所在地の町内会へ届けたりしてきた。

高等部は平成27年度に釜石高校内に移設し、県内初のインクルーシブ教育の形態として注目を集めている。そして、釜石高校にご協力をいただきながら地域への発信を続けている。

2 地域の災害リスクや社会的環境の特性

本校舎のある地区は以前より釜石市から土砂災害指定区域に指定されており、大雨時の通学路冠水、陥没、川の氾濫の経験があり常に注意を必要としてきた。

また、三陸自動車道が校舎に隣接、もしくは近隣で建設中であり、大型工事車両等の往来が激しい。工事に伴って日常的に児童生徒の散歩コースとして活用してきた地域の生活道路も立ち入り禁止となった。学校生活全般に、これまで以上に児童生徒の安全に留意しなければならなくなったと言える。

本校は市内から離れた山間部にあり、公共交通機関であるバスは、平日一日3往復のみの運行である。また、迂回路のない一本道のため、災害が起こったり通学路が遮断されたりすると、逃げ場を失うことになる。日頃から学校を取り巻く自然環境にも注意を払い、安全な学校生活を心がけている。

3 「いわての防災教育」

「いわての防災教育」の3つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」は、防災教育の内容と密接な関係がある。例えば、「いきる」は①「生命の大切さ」②「心のあり方」③「心身の健康」、 「かかわる」は①「人の絆の大切さ」②「地域づくり」③「社会参画」、 「そなえる」は①「自然災害の理解」②「防災や安全」が挙げられ防災教育の基盤となるものである。

本校においても各学部の重点目標に組み入れ「いきる」「かかわる」「そなえる」教育活動に年間をとおして取り組んでいる。

4 具体的な取り組み

(1) 防災避難訓練

地震、火災を想定した総合的な避難訓練を実施している。隣接する病院内で学習しているしゃくなげ分教室の避難については、本校舎と離れているためトランシーバーを使い情報をやり取りしながら避難している。また、高等部生徒は釜石高等学校の避難訓練に参加している。

本校舎のある地区は、以前より釜石市から土砂災害警戒区域に指定されており、大

雨時の避難等についてもマニュアル化を進めている。

防災頭巾・ヘルメットについては、各教室に児童生徒職員分を用意し全校での集会や行事の際には携行している。

未だに震災のトラウマがある児童生徒職員もおりサイレンや防災無線、小さな揺れ、震災に関わる映像や画像を怖がったり見たり聞いたりして不安定になったりすることがある。避難訓練が近づくとソワソワし落ち着かなく児童生徒もいる。そのため訓練時は地震の効果音等は使わず放送のみの訓練としている。

(2) 交通安全教室

地域の交通指導員を招いて毎年行っている。校舎内での活動のほかに市街地に出かけ、信号機のある交差点の渡り方について学習している。

(3) 防犯教室・防犯訓練

不審者対応の訓練に取り組んでいる。「不審者が学校の中に入ってきたら…」という内容のプレゼンテーション資料を用意し、児童生徒の防犯意識の啓発に努めている。

職員については、地区交番の警察官に不審者役をお願いし「さすまた」を使うなど緊急時を想定した防犯訓練に取り組んでいる。

(4) 県立学校復興交流推進事業

① 「復興ひまわりプロジェクト」

ひまわりを育てることをとおして、平成23年度に支援していただいた県立花巻清風支援学校との交流を行った。また、育てたひまわりを仮設住宅に贈った。

② 「復興ステッカーをおくろう」

支援してくださった方々に近況を手紙に書き、復興ステッカーと共に送った。高等部の作業製品販売時(本校でのバザー、釜石高校文化祭、釜石市産業まつり、国立療養所釜石病院お祭り会)に、購入いただいた方に復興ステッカーを渡した。

③ 「募金活動」

高等部作業製品販売時に児童生徒会とともに募金活動も行い、作業製品売り上げの一部と募金を釜石市の「赤い羽根共同募金」などに寄付した。

④ 「うちわを配ろう」

手作りうちわを地域の方々に配り日々の支援への感謝の気持ちを表し、さらに自分たちも地域の一員であることを意識し、顔の見える地域づくりを目指した。

(5) 県立学校復興担い手育成支援事業（就職等支援）

本事業は、岩手の復興・発展を支える児童生徒を育成することを目的とし、沿岸被災地県立学校を対象に就職指導等のキャリア教育の充実を図るための教育活動を支援するものである。本校では、高等部が「卒業生との交流会」「マナーアップ講座」の各事業を実施した。「卒業生との交流会」では、質疑応答をとおして実際に社会で働く先輩方の生の声を聴くことができ、在校生の就労意識の向上に役立った。「マナーアッ

ブ講座」では、日頃の食事の仕方に気をつけようとする意識が高まるとともに、将来、社会人として身につけておきたいこととして意識することにも役に立った。職員にとっても食育に関する指導の機会となり、また、今後の給食指導の在り方を考える良い機会にもなった。

(6) 平成28年度「希望郷いわて大会」選手団激励会参加

本年度岩手県で開催された「希望郷いわて大会...全国障害者スポーツ大会」の開会式前日に行われた岩手県選手団激励会に中学部の生徒職員が参加し、釜石市の郷土芸能である「虎舞」を披露した。練習には、地区の虎舞保存会会長を招いて地域に伝わる伝統芸能を直接指導していただいた。

激励会当日は、皇太子さまから直接お声をかけていただき緊張した表情の中にも満足感あふれる生徒の顔が印象的だった。



(7) 災害時対応訓練

災害時における避難所開設について、それぞれの班業務を具体化し確認したり、備蓄米の使用方法を確認したりしている。本年度は、児童生徒についても非常食体験(いわての復興教育スクール予算で非常食等購入)を実施した。





5 その他

昨年、11月24日に宮城県仙台市で開催された「防災教育を中心とした学校フォーラム」に参加させていただいた。

参加した特別支援分科会では、宮城県や千葉県での取り組みの様子が発表された。宮城県の発表の中では、登下校時のスクールバス利用時の防災対策について発表があった。10台以上のスクールバス（借り上げ）利用児童生徒の災害時における安全確保や保護者やサービス事業所への受け渡しなど訓練を行いながら確認されていた。

千葉県の学校では、高等部の生徒が避難訓練を企画し実際に行っている事例が発表された。主体的に取り組むことによって生徒一人一人の防災意識が向上しているという内容だった。

6 今後の課題

震災から約6年が経過し、現在は震災時に本校に在籍していた職員が数名しかいない状況になってしまった。未だに仮設住宅で生活している児童生徒職員もいる中で一人一人が日々の生活の中で、どのように防災意識をもちながら学校生活、地域生活に取り組んでいくか、地域と学校とがどのように連携しながら防災教育に取り組んでいくかなど、課題として今後も継続して取り組んでいかなければならないと考える。

